修

IV

 \blacksquare

諸 課

Χ 大

施 設



社会情報デザイン学部

教育研究上の目的

社会情報デザイン学部は、建学の精神に基づき、多様化・複雑化する社会に対する理解や知識を修得 するとともに、生涯にわたって自己研鑽していく態度を修得し、社会に対する自発的な関心のもとに課 題を発見し、他者を尊重し互いを認め合いながら協働し、情報を活用しながらよりよい社会を目指した 創造、提案ができる人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

社会情報デザイン学部は、次の学生像を人材育成の方針とする。

- 1. 多様化・複雑化する社会に対する知識を有し、よりよい社会を実現していくうえで必要となる思考力と自 己研鑽していく態度を持っている。
- 2. 多様な他者の価値観を理解、尊重しながら、対話を通じて他者に働きかけ、協働することができる。
- 3. 自発的な関心に基づき課題を発見し、情報を活用しながら、他者と協働してよりよい社会を目指した創造、 提案をすることができる

対職課程

社会情報デザイン学部

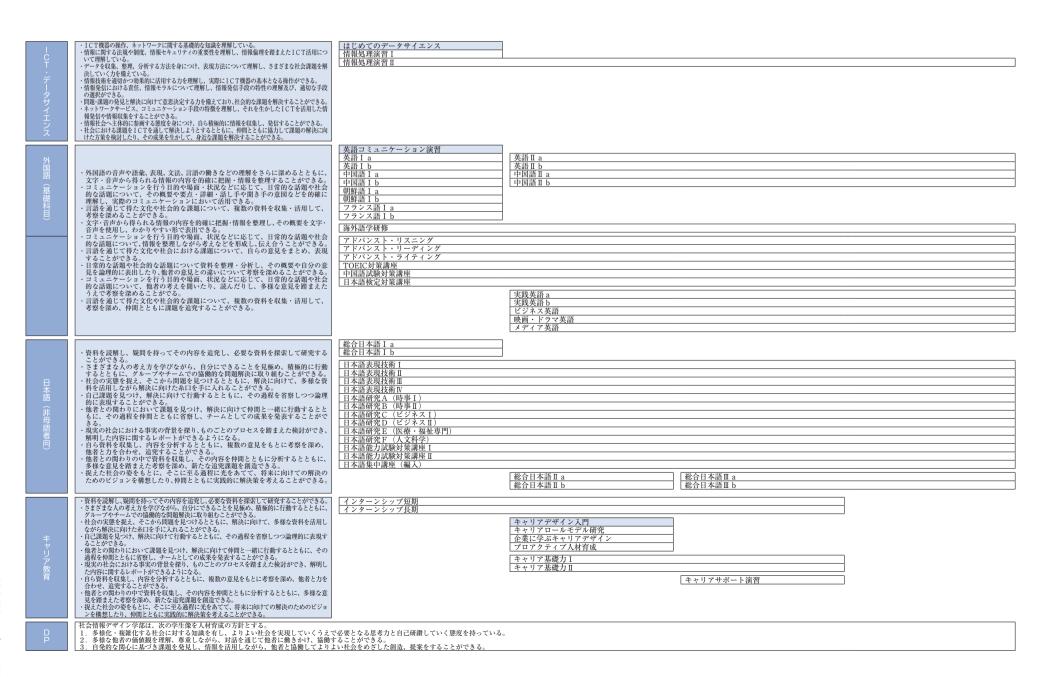
カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるよ うになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

共通科目 カリキュラムマップ

→ 必修科目

領域	学生が身につけるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
ゼミナール	・文章や資料の意味や意図を理解するとともに、自分の考えを文章や図表などを活用してわかりやすく他者に伝えることができる。 他名の意見に耳を傾けてその考え方を理解したり、話し合いを通して共感したりするとともに、自分の意見をまわりの人にわかりやすく伝えることができる。 ・実社会や実生活を分析的に規え、身の回りにある課題に気付くとともに、その解決に向けて必要となる情報や資料を収集し解決に向けた糸口を見つけることができる。 ・実社会や実生活の中から課題を見出し、問いを立てて情報を収集し、整理・分析してまとめ・表現することができる。 ・場合とやまとめ・表現することができる。 ・場合との関わりであると表現することができる。 ・他者との関わり中で、主体的・路崎的に取り組むとともに、自分の目標を明確にしながら積極的に問題解決に取り組むことができる。 ・他者との関わり中で、互いのようや役割を意識しながら新たな価値の創造を目指して協働的に問題解決に取り組むことができる。 ・他者との関わりやで、まいのようとのできる。 ・他者との関わりが表現することができる。 ・他者との関わりを対象を検討するとともに、関係者の意見を取り入れながら異なる課題とながら解決策を検討するとともに、関係者の意見を取り入れながら更なる課題を見出し、その解決策を検討するとともに、関係者の意見を取り入れながら更なる課題を見出し、その解決策を検討するとともに、関係者の意見を取り入れながら更なる課題を見出し、その解決策を機能して探していくことができる。	入門ゼミナール	[課題解決ゼミナール	総合ゼミナール	
総合	・講義や講話を聞いて、自己の既有知識及び他者の既有知識、概念と照合する中で、今までの先入観を壊すような学修をすることができる。 ・講義や講話を聞いて、問題意識をもち、疑問を持って学修する中で、今までの先 入観を壊すような学修をすることができる。 ・講義や講話に基づいて関連する情報を集めたり、自己内対話を行う、他者と対話 したりなどし、適切なノートテイキングができる。 ・講義や講話に基づいて関連する情報を集めたり、疑問点を整理したりする中で、 適切なノートテイキングができる。 ・講義や講話の基づいて自ら選択した料目の重要性に気づいたり、そこでの知見及 び他者からの地検を将来に生かそうとしている。 ・講義や講話の基づいて自ら選択した料目の重要性に気づいたり、芽ばえた疑問点 を追究する中で得られた知見を得来に生かそうとしている。	地域で学ぶ 人間関係とコミュニケーション 総合科目 自主社会活動	地域と人間生活 人間理解ワークショップ		
人間	・資料を談解し、疑問を持ってその内容を追究し、必要な資料を探索して研究することができる。 こまざまな人の考え方を学びながら、自分にできることを見極め、積極的に行動するとともに、グループやチームで心筋筋的な問題解決に取り組むことができる。 ・社会の実態を捉え、そこから問題を見つけるとともに、解決に向けて、多様な資料を活用しながら解決に向けた糸口を手に入れることができる。 ・自己課題を見つけ、解決に向けて行動するとともに、その過程を省察しつつ論理的に表現することができる。	キャリアデザインとライフプラン リーガルリテラシー ジェンダーリテラシー 子育でと環境 女性と健康 女性の心と身体	食の科学 歴史のなかの女性 芸術を読みとる		
社会	・他者との関わりにおいて課題を見つけ、解決に向けて仲間と一緒に行動するとともに、その適程を仲間とともに省祭し、チームとしての成果を発表することができる。 ・現実の社会における事実の背景を探り、ものごとのプロセスを踏まえた検討ができ、解明した内容に関するレポートができるようになつ。 ・自ら資料を収集し、内容を分析するとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他者と力を合わせ、追究することができる。 ・他者との関わりの中で資料を収集し、その均等を仲間とともに分析するとともに、多様な意見を踏まえた考察を深め、新たな追求課題を創造できる。 ・提えた社会の姿をもとに、そこに至る過程に光をあてて、将来に向けての解決のためのビジョンを構想したり、仲間とともに実践的に解決策を考えることができる。	グローバル社会 ネットワーク社会 共生社会人門 多様性と倫理 持続可能な社会 くらしのなかの日本国憲法 ボランティア論	災害と社会 21世紀型の教育		
体保 育健		身体運動 I 身体運動 Ⅱ			



ハンドブック学びの

ス大学院 刃施 設 畑GSA 畑教務関連

切数職課程 如 諸 課 程 如 単位認定

アサイン学部 社会情報

2 教育人文

1 学修 日 資格取得 四 人間生活

 \blacksquare

人文

諸課程

 $\mathbb{V}\!\!\!\mathrm{I}$

設

IIX Q &

大学



社会情報デザイン学部 (S) 共通科目教育課程 2024年度生

	科目	目 群	卒業に必要な単位数
		必修	7 単位
共	通	選択必修	8 単位
		選 択	7 単位以上
		†	22単位以上

- ●必修科目7単位履修すること
- ●選択必修科目8単位履修すること。<u>6単位を超えた分は</u> 選択科目の単位となる。
- ■選択科目7単位以上履修すること
- ●合計22単位以上履修すること

▶履修期欄に「前・後」と記載がある科目は、配当年次のいずれかを履修すればよい。

			単位数	女					(⊚…	重要な	目的と	身 してし	につく	、力 ○…主	な目的	として	こいる)
科目区分	授業科目	必修	選択必修	選択	授業形態	修期	配当年次		把握・資料探索	決への模索・省察自己課題発見・解	協働的課題追究 資料収集·資料分析·	解決・協働的学修対話的検討・自力	への試行・チームとしての省察 協働的課題発見・協働的解決	分析・協働的考察協働的資料収集・	用力・課題解決実態把握・資料活	プレゼンテーションカ実態と背景の把握・	の検討・協働的、実践的解決社会的課題の析出・解決方策
ゼ	入門ゼミナール	2			講義	前	1		0	0	0	0	0	0	0		
ゼミナー	課題発見・探求ゼミナール			1	演習	後	1.2.3.4		0	0	0	0	0		0	0	
	課題解決ゼミナール			2	演習	前·後	2 · 3				0	0	0	0	0	0	
ル	総合ゼミナール			2	演習	前·後	3 · 4				0		0	0	0	0	0
	地域で学ぶ			2	講義	前·後	1.2.3.4		0	0	0	0	ļ <u>.</u>		0		ļ
総	地域と人間生活			2	講義	前・後	2.3.4		0	0	<u> </u>	0	0		0		
	人間関係とコミュニケーション				講義	後	1.2.3.4		0	0	0	0	<u> </u>		0	ļ <u>.</u>	ļ
合	人間理解ワークショップ			2	講義	前・後	2.3.4		0	0	0	0	0		0	0	ļ
	総合科目			2	講義	前·後 前·後	1.2.3.4		0	<u></u>	<u> O</u>		ļ		<u> </u>		
	自主社会活動		9	1	演習		1.2.3.4	1	0	0	0				0		-
	キャリアデザインとライフプラン リーガルリテラシー		2		講義講義	前·後 前·後	1				0			0	ļ	0	
	ジェンダーリテラシー		2		講義	前・後	1	5科目から 1科目2単		0	0		ļ			<u></u>	0
	子育てと環境		2		講義	前・後	1	位以上履修	0		ļ <u></u>		0				ļ
人	女性と健康		2		講義	前・後	1		<u>У</u>	0	0		ļ <u>~</u>		0		
間	女性の心と身体			2	講義	前・後	1.2.3	.)		Ö	<u>-</u>	0			ļ <u>~</u>	0	
	食の科学			2	講義	前・後	2.3		0						0		
	歴史のなかの女性			2	講義	前・後	2.3			0	0	0					
	芸術を読みとる			2	講義	前・後	2.3		0		Ō						
	グローバル社会		2		講義	前·後	1)			0	0					
	ネットワーク社会		2		講義	前·後	1	5科目から		0						0	
	共生社会入門		2		講義	前·後	1	1 科目 2 単		0			0	0			
社	多様性と倫理		2		講義	前·後	1	位以上履修	0		0						
会	持続可能な社会		2		講義	前·後	1	<u>. J</u>	0				ļ			0	0
云	くらしのなかの日本国憲法			2	講義	前·後	1.2.3		0				0				0
	ボランティア論			2	講義	前·後	1.2.3		0		0		ļ	0			
	災害と社会			2	講義	前・後	2.3			0			ļ <u>.</u>		0		
	21世紀型の教育			2	講義	前·後	2.3	1		0	0		0				_
体保 育健	身体運動 [1		実技	前	1.2.3.4	2科目から1科目を選択必修	0	0	0	0	<u> O</u>	0	0	0	
	身体運動 Ⅱ はじめてのデータサイエンス	2	1		実技講義	後後	1.2.3.4) 日で医扒化物	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ンサデー ンイ・C	情報処理演習I			1	神我 演習	前	1		0								0
スイーU スエタエ	情報処理演習Ⅱ			1	演習	後	1.2.3.4		<u>©</u>		ļ		ļ		0		
	英語コミュニケーション演習	1		1	演習	前・後	1		0	0		0	0				
	英語Ia		1		演習	前	1	12科目から1科目を	0	Ö			ļ <u>~</u>				
	英語Ib		1		演習	後	1	選択必修	0	0							
	英語 II a		1		演習	前	2.3.4	ただし、日本語を 母国語としない者	0	Ö	Ö			0	0	0	
外 国 語	英語Ⅱ b		1		演習	後	2.3.4	は、「総合日本語Ⅰ	0	Ö	Ö			0	0	Ö	
語	中国語 I a		1		演習	前	1	a」「総合日本語I	0	0		0	0	0			
	中国語 I b		1		演習	後	1	b」を履修すること		0		0	0	0			
(基礎科目)	中国語Ⅱ a		1		演習	前	2.3.4	教員免許取得希望者は、「英語 Ia」「英語	0	0			0	0			
科	中国語Ⅱ b		1		演習	後	2.3.4	[] [中国語 [a [中	0	0		0	0	0			
<u> </u>	朝鮮語Ia		1		演習	前	1	国語Ib」、「朝鮮語I	0	0		0	0	0			
	朝鮮語Ib		1		演習	後	1	a」「朝鮮語 I b」、「フ ランス語 I a 」「フラン	0	0		0	0	0			
	フランス語 I a		1		演習	前	1	ス語Ib」のいずれか	0	0		0	<u> </u>	0			ļ
	フランス語 I b		1		演習	後	1	2科目2単位を履修	0	0		0	0	0	ļ		
	海外語学研修			1	実習	前	1.2.3.4										

Х

施

/\	브
$\frac{1}{2}$	7
K	σ
Ť	
ッ	
ク	

実践英語 a 1 演習 前 2·3·4 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	分析・協働的考察 〇 〇	0	プレゼンテーションカ	の検討・協働的、実践的解決
実践英語 a 1 演習 前 2·3·4 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	0	0	©	
タリスト・リスニング アドバンスト・リーディング フ 講義 前・後 1:234 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	0			
外国語 アドバンスト・リーディング 2 講義 前・後 1·234 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	0			
Tドバンスト・リーディング 2 講義 前・後 1-234 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		0		
語 り り り り 利 科 日 り り り り り り り り り り り り り り り り り り	0			
Eシネス英語 2 講義 後 2·3·4 映画・ドラマ英語 2 講義 前・後 2·3·4 メディア英語 2 講義 前 2·3·4	0		(())	
別 映画・トブマ央語 2 講義 前・俊 2·3·4	0			
				ļ
TOEIC対策講座			0	
TOETCA 東海至 2 講義 版 1234			0	
日本語検定対策講座 2 講義 前·後 1234			0	
MAHLET T				
総合日本語 I a				
総合日本語 II a 1 演習 前 2 は、「総合日 〇 〇				
総合日本語 II b				
日本語表現技術 I 1 演習 前 1·2·3·4 日本語表現技術 I 1 演習 後 1·2·3·4 日本語表現技術 II 1 演習 後 1·2·3·4				
□ 日本語表現技術 I				
日本語表現技術Ⅲ 1 演習 前 1·2·3·4 (なければ模 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○				ļ
日本語表現技術Ⅲ				
日本語研究A (時事 I) 1 演習 前 1·2·3·4 つ、教貞が実 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇				ļ
Table T				
日本品切光し(ピンネヘエ) 1				ļ
日本語研究D(ビジネスⅡ)				
と判断されたと				
日本語研究 F (人文科学)			0	0
日本語能力試験対策講座 I 1 演習 後 1·2·3·4 することがで			0	
日本語集中講座 1 演習 前 1234 きる。			0	
キャリアデザイン入門 2 講義 後 2 ○ ○ ○ ○	0 0	-	0	0
キャリアロールモデル研究 2 講義 後 2)				Ö
A MP . W				0
キャリアデザイン 2 講義 前 2 プロアクティブ人材育成 2 講義 後 2 キャリアサポート演習 2 演習 通 3 キャリア基礎力I 2 講義 前 2・3 育 キャリア基礎力II 2 講義 後 2・3				0
サイン キャリアサポート演習 2 演習 通 3 位の中から ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	0 0	0	0	0
数 キャリア基礎力 I 2 講義 前 2·3 2単位以上 ◎ ○ ○				
11177 至627年				ļ
インターンシップ短期 1 実習 前·後 1·2·3	0 0		0	0
インターンシップ長期 2 実習 前・後 1·2·3 J ○ ○ ○ ○ ○	0 0		0	

 $\mathbb{V} \mathbb{I}$

施

設



教育研究上の目的

社会情報デザイン学科は、これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する知識を 有するとともに、自らの興味・関心に基づき課題を発見し、その課題解決に向けて多様な他者の価値観 を理解、尊重しながら協働し、柔軟な発想力、企画力をもって、プロジェクトを完遂することができる 人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

社会情報デザイン学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

- 1. これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する知識を有し、よりよい社会を目指すう えで必要となる思考力と自己研鑽していく態度を持っている。
- 2. 多様な他者の価値観を理解、尊重しながら、対話を通じて他者に働きかけ、協働することができる。
- 3. 自らの興味・関心に基づき課題を発見し、情報を活用しながら柔軟な発想でアイデアを創造、提案し、他 者と協働しながらプロジェクトを完遂することができる。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士(社会学)」の学位を授与する。

①知識・技能

- 1. これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する基礎知識、専門知識を有している。
- 2. 立場の異なる他者を尊重しながら対話する力を有している。
- 課題の発見・解決のプロセスのために必要となる情報を正しく収集・活用できる力を有している。

②思考力・判断力・表現力

- 1. これからの社会の構想とその実現に向けた課題解決のために必要となる論理的・創造的思考と判断力を有 している。
- 2. 多様な他者の価値観を理解することのできる態度を有している。
- 社会が必要としているモノやサービスについて、柔軟な発想で考え、新しいアイデアを提案する力を有している。

③主体性・多様性・協働性

- 1. これからの社会で何が必要であるかを見定め、生涯にわたり自己研鑽していく態度を有している。
- 2. 課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる積極性や働きかける力を有している。
- 3. 他者と協働しながらプロジェクトを完遂する力を有している。

教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

社会情報デザイン学科では、ディプロマ・ポリシーに定める資質・能力を育成するために必要な授業科目を精 選し、系統的かつ体系的な教育課程を編成している。そのために、社会情報デザイン学科では、「基礎ユニット」 「専門ユニット」「演習・卒業研究」の3つの領域区分を設け授業科目を配置している。

基礎ユニットでは、これからの社会において必要となる基礎的な知識や力を養うとともに、生涯にわたって自 己実現を成し遂げるうえで必要となる基本的な姿勢を育むことを目的とする。

この目的を果たすために、以下の3つのユニットを設定する。

- 「現代社会理解」では、これからの社会において必要となる社会やビジネスに関する基本的な知識やスキ ルを広く養うことを目的とし、「現代社会の基礎理解」「ビジネス入門」「現代社会論」「社会学概論」を必 修科目とする。
- 「思考・表現」では、グループワークなどを通じて、他者と協働し、チームで新しい価値を生み出すため のスキルや姿勢を育むことを目的とし、「発想法入門」「課題探究ワークショップI」を必修科目とする。
- ・「情報活用」では、コンピューターを用いた演習などを通じて、これからの社会において必要となる情報 の収集・活用に関する基本的な知識やスキルを養うことを目的とし、「社会情報リテラシー」「調査・統計 リテラシー」を必修科目とする。

VII

諸

単位認定

Χ

施

Q

&

専門ユニットでは、自らの興味関心に基づいてより高度な専門知識を身につけるとともに、それをさまざまな 場面で活用することで、社会課題の発見・解決を志向する力を養うことを目的とする。

この目的を果たすために、以下の5つのユニットを設定する。

- ・「経営・マーケティング」では、ビジネスの現場で生ずるさまざまな問題を解決するために必要となるマ ネジメントやマーケティング能力を養うことを目的とする。
- ・「社会デザイン」では、社会課題を発見しその解決の道筋をつけるためのより高度な知識と調査スキル、 そして実践力を養うことを目的とする。
- ・「データサイエンス」では、さまざまなデータを収集・分析・活用する方法を習得することを目的とする。
- ・「情報システム」では、より高度なプログラムを作成するための知識とスキルを養うことを目的とする。
- ・「メディアデザイン」では、色彩や音響、映像などのデザインの技法を習得することを目的とする。

演習・卒業研究では、習得してきた知識・スキルを統合し活用する能力を養い、主体的に課題探究に取り組み、 その成果を発表する力を養うことを目的とする。

この目的を果たすため、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を必修科目とする。

教育の実施には、それぞれの科目の内容に合った授業形態(講義、演習、実習)を用いる。他者と協働する力 を育成し、主体的な学びの姿勢を高めるために、教員と学生間の双方向型授業、グループディスカッション、グ ループワーク等のアクティブ・ラーニングの手法を取り入れたPBL(課題解決型授業)を導入する。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

基礎ユニット

- 1. これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する基礎知識を身につけさせる。
- 2. 立場の異なる他者を尊重しながら対話する力を育成する。
- 3. 情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。
- 4. 身近な生活における課題発見・解決のために必要となる論理的・創造的思考と判断力を身につけさせる。
- 5. 多様な他者の価値観が存在することを認められる態度を育成する。
- 6. 身近な生活における課題に対して柔軟な発想で考え、新しいアイデアを提案する力を身につけさせる。
- 7. 社会に対して広く興味・関心を持たせ、自ら継続的に学ぶ姿勢を育成する。
- 8. 課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる積極性を育成する。
- 9. 他者と協働しながらプロジェクトを完遂する力を身につけさせる。

専門ユニット

- 1. これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する専門知識を身につけさせる。
- 2. 立場の異なる他者を尊重しながら対話し、合意にたどりつく力を身につけさせる。
- 3. 課題の発見・解決のプロセスのために必要となる情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。
- 4. これからの社会の構想とその実現に向けた課題解決のために論理的・創造的思考と判断力を身につけさせる。
- 5. 多様な他者の価値観を理解することのできる態度を育成する。
- 6. 社会が必要としているモノやサービスについて、柔軟な発想で考え、新しいアイデアを提案する力を身に つけさせる。
- 7. これからの社会で何が必要であるかを自ら見定め、生涯にわたり自己研鑚していく態度を育成する。
- 8. 課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる他者への働きかける力を育成する。
- 9. 他者と協働しながらそれぞれの専門性を駆使してプロジェクトを完遂する力を身につけさせる。

演習・卒業研究

- 1. 卒業研究を行ううえで必要となる専門知識を身につけさせる。
- 2. 立場の異なる他者との対話から新しい知見を引き出すことができる力を育成する。
- 3. 研究を進めていくために必要となる情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。
- 4. 卒業研究を行ううえで必要となる論理的・創造的思考を身につけさせる。
- 5. 多様な他者の価値観を理解したうえで、自らの主張を論理的に相手に伝える力を身につけさせる。
- 6. 個々の研究成果を客観的に表現する力を身につけさせる。
- 7. 卒業研究から得られた成果をこれからの社会に還元しようとする姿勢を育成する。
- 8. 個々の研究を進めていくために、他者と協力し合える力を育成する。
- 9. 個々の研究テーマに対して主体的に取り組む姿勢を育む。

 \bowtie

ハンドブック学びの

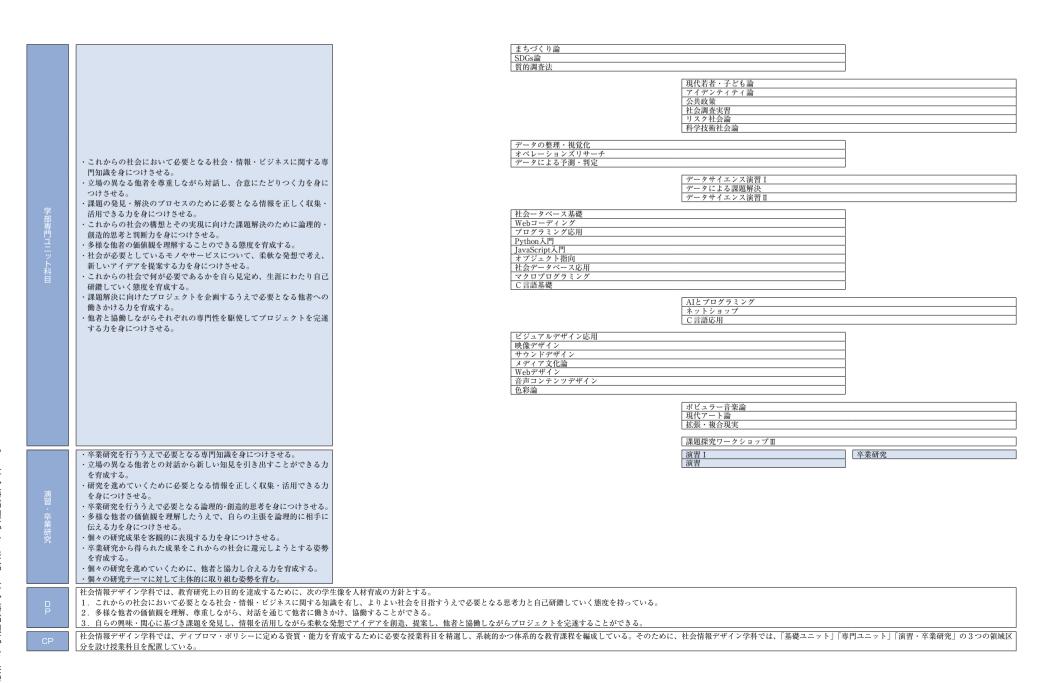
カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるよ うになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

社会情報デザイン学科 カリキュラムマップ

→ 必修科目

領域	学生が身につけるべき資質・能力	1 年次	2年次	3年次	4年次
学部基礎ユニット科目	・これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する基礎知識を身につけさせる。 ・立場の異なる他者を尊重しながら対話する力を育成する。 ・情報を正し、収集・活用できる力を身につけさせる。 ・身近な生活における課題発見・解決のために必要となる論理的・創造的思考と判断力を身につけさせる。 ・多様な他者の価値観が存在することを認められる態度を育成する。 ・身近な生活における課題に対して柔軟な発想で考え、新しいアイデアを提案する力を身につけさせる。 ・社会に対して広く興味・関心を持たせ、自ら継続的に学ぶ姿勢を育成する。 ・課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる積極性を育成する。 ・他者と協働しながらプロジェクトを完遂する力を身につけさせる。	現代社会の基礎理解 ビジネス入門 現代社会論 情報社会とIoT 情報社会と法 マーケティング入門 業界研究	ジェンダー論 社会福祉論 生活経済 消費生活論 政治と社会 現代社会と人権 メディアリテラシー ブレゼンテーション基礎 ブレゼンテーション応用 英語実践演習 データ活用入門		
学部専門ユニット科目	・これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する専門知識を身につけさせる。 ・立場の異なる他者を尊重しながら対話し、合意にたどりつく力を身につけさせる。 ・課題の発見・解決のプロセスのために必要となる情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。 ・これからの社会の構想とその実現に向けた課題解決のために論理的・創造的思考と判断力を身につけさせる。 ・多様な他者の価値観を理解することのできる態度を育成する。・社会が必要としているモノやサービスについて、柔軟な発想で考え、新しいアイアを提案する力を身につけさせる。 ・これからの社会で何が必要であるかを自ら見定め、生涯にわたり自己研鑽していく態度を育成する。 ・課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる他者への働きかける力を育成する。 ・他者と協働しながらそれぞれの専門性を駆使してプロジェクトを完遂する力を身につけさせる。	データサイエンス概論 プログラミング基礎 文書作成入門	経営戦略論 経営組織論 マーケティングと商品開発 広告論 会計学概論 サービス学概論 企業論 現代家族論 異文化コミュニケーション論 地域コミュニティ論 共生社会論 課題探究ワークショップⅡ マスコミュニケーション論	企業倫理とガバナンス グローバルビジネス デジタル・マーケティング コンテンツビジネス 倫 先端技術とビジネス マーケティングデザイン ビジネスプロジェクト	



 \mathbb{VII} 諸 課 程

院

施

Α

社会情報デザイン学部 社会情報デザイン学科(SA) 専門科目教育課程 2024年度生

科目	目 群	卒業に必要な単位数							
共 通	科目	22単位	立以上						
学的审問的日	必修	24単位	90単位以上						
学科専門科目	選択	66単位以上	90平位以上						
自由選	択科目	12単位	立以上						
-	t	124単4	位以上						

- ●共通科目から、必修科目7単位、選択必修科目8単位を 含めた22単位以上を履修
- ●専門科目から、必修科目24単位(卒業研究を含む)を含 めた90単位以上を履修
- ●自由選択科目は、12単位以上を履修
- ●合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目"!?

- a. 共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる
- 例)共通科目28単位取得した場合は、6単位分が自由選択科目 の単位となる。
- b. <u>自学科の専門選択科目66単位を超えた分が自由選択科目の単</u> 位となる。
 - 例) 自学科の専門選択科目68単位取得した場合は、2単位分が 自由選択科目の単位となる
- c. 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。
 - a~cを組み合わせて(又は単独で)12単位以上を履修

			単位	立数						(©···	重要な	目的と	身 してし <u>-</u>	につく	.力 ○…主	な目的	として	こいる)
科目	目区分	授業科目	必修	選択	授業形態	修期	配 当 年 次	他学科開放	考	関する基礎、専門知識社会・情報・ビジネスに	思考と判断力論理的・創造的	自己研鑽してい	がら対話する力	者の価値	ける力 積極性や働きか	の情報収集・活用力課題発見・解決のため	を提案する力新しいアイデア	ジェクトを完遂する力
		現代社会の基礎理解	2		講義	前	1年	×		0		0	0	0			0	
		ビジネス入門	2		講義	前	1年	×		0	0	0	0	0		0		
		現代社会論	2		講義	後	1年	×		0	0	0	0	0	0	0	0	
		情報社会とIoT		2	講義	前	1年	0		0		0					0	
		情報社会と法			講義	前	1年	0		0	0			ļ		0		
	現	マーケティング入門		2	講義	後	1年	×		0						0	0	
	現代社会理解	業界研究		2	講義	後	1年	0		0	<u> </u>	0	0	0	0			0
	는 <u>수</u>	社会学概論	2	ļ	講義	前	2年	×		0	0			0				
	理	ジェンダー論		2	講義	前	2年	×		0	0			0		0		
	解	社会福祉論		2	講義	前	2年	×		0	0			0			0	
学		生活経済		2	講義	前	2年	×		0		0		0		0		
学部基礎ユニット科目		消費生活論		2	講義	前	2年	0		0	0							
基礎		政治と社会		2	講義	後	2年	0		0	0	0				0		
型		現代社会と人権		2	講義	後	2年	0		0	0	0	0	0				
=		メディアリテラシー		2	講義	後	2年	0		0	0	0	0	0		0		
ット		発想法入門	2		講義	前	1年	×			0		0	0	0	0	0	
科		課題探究ワークショップ I	2	ļ	演習	後	1年	×					0	0	0	0	0	0
目	思考	デザインリテラシー		2	演習	前	1年	×		0	0			0		0		
		ビジュアルデザイン基礎		2	演習	後	1年	×		0	0			0		0	0	
	表現	プレゼンテーション基礎		2	演習	前	2年	×		0	0		0	0	0	0		0
	現	プレゼンテーション応用		2	演習	後	2年	×			0	0	0	0	0	0	0	0
		英語実践演習		2	演習	後	2年	×			0		0	0		0	0	
		社会情報リテラシー	2		講義	前	1年	×		0	0	0	0			0		
	Jt-	調査・統計リテラシー	2		講義	後	1年	×		0		0	0	0		0	0	
	情 報	データサイエンス概論		2	講義	後	1年	×		0	0				0			
	情報活用	プログラミング基礎		2	演習	後	1年	×		0	Ö					0		
	用	文書作成入門		2	演習	後	1年	×		Ö	0	0						
		データ活用入門		2	演習	<u>i</u> 企 前	2年	×			0	<u>-</u>				0		
		経営戦略論		2	講義	前	2年			0	0	0	0	0		0		
		経営組織論		2	講義	 前	2年	0		0	ļ <u>~</u>	- Ö	·····		0			0
	経	マーケティングと商品開発		2	講義		2年	×			0	ļ <u>~</u>		ļ	Ö	0		<u>-</u>
	経営・	広告論		2	講義	後	2年	×		0	0			0		<u>~</u>	Ö	
عدد		会計学概論		2	講義	後	2年	0		0	Ö			-			ļ <u>~</u>	
学部専門ユニット科目	マーケティングユニッ	サービス学概論		2	講義	後	2年			0		0	0	0		0	0	
事	<u> </u>	企業論		2	講義	後	2年					<u>©</u>	<u>V</u>	ļ		- <u> </u>	ļ	
門	1	企業倫理とガバナンス			講義	前	3年		ļ		0		0	0		0		
=	ン	グローバルビジネス		2	講義	前	3年					0		0		<u>U</u>		
ש	2	デジタル・マーケティング		2	講義	前	3年	×		1	0			ļ		0		
利	三三	コンテンツビジネス論		2	講義	前	3年	^				0	0		0	0	0	0
	ッ	出		2	講義	後	3年	×		0				ļ		0		
		元姉女帆 こと シ 不		2	演習	後	3年	<u>^</u>				0	0		0	<u> </u>	ļ	0
		ビジネスプロジェクト		2	演習	後	3年	×					0	0	0	0	 	0
	ユデー	現代家族論		2	講義	前	2年	Ô			0	0		0		0		
	ニザ社ツイ会			2	講義	前		<u> </u>		-		ļ	0	ļ		0		
	トン	異文化コミュニケーション論			神我	ĦÜ	2年						\cup					

 \mathbb{VII}

			単位	立数						(⊚	重要な	目的と	身 してし <u>-</u>	につく	.力)…主	な目的	として	「いる) 「いる)
科目	目区分	授業科目	必修	選択	授業形態	修期	当年次	他学科開放	考	関する基礎、専門知識社会・情報・ビジネスに	思考と判断力論理的・創造的	自己研鑽してい	がら対話する力 としな	せることのできる態度 他者の価値観を理解	ける力 積極性や働きか	の情報収集・活用力課題発見・解決のため	を提案する力 アイデア	ジェクトを完遂する力他者と協働しながらプロ
		地域コミュニティ論		2	講義	前	2年	0		0	0		0	0		0		
		共生社会論		2	講義	前	2年	0				0	0	0				
	44	課題探究ワークショップⅡ		2	演習	前	2年	×			ļ		0	0	0	0	0	0
	任 会	マスコミュニケーション論		2	講義	後	2年	×		0	0		0	0	0	0	0	
	社会デザインユニッ	まちづくり論		2	講義	後	2年	0		0	0	ļ		0		0		
	サイ	SDGs論		2	講義	後	2年	<u> </u>		0			0			0		
	シ	質的調査法		2	演習	後	2年	×		0	ļ	ļ	0	0	0	0	0	
	그	現代若者・子ども論		2	講義	前	3年	<u> O</u>		0			0	0		0		
	ッ	アイデンティティ論		2	講義	前	3年			0	0			0				
		公共政策		2	講義	前	3年	0		0	0	ļ				0		
		社会調査実習 リスク社会論		2	実習	前	3年 3年	×			0		0	0	0	0		
		リヘク社会論		2	講義講義	後	3年	×		0	0	l		0			0	
	_	データの整理・視覚化		2	講義	前	2年	×		0		0				0	0	\vdash
		オペレーションズリサーチ		2	講義	後	2年	 		0	0	ļ				0		
	ユタニサ	データによる予測・判定		2	講義	後	2年	×		0	0					0		
	一リ	データサイエンス演習 I		2	演習	前	3年	×			0	0				0	0	
عدد	ッイトエ	データによる課題解決		2	講義	前	3年			0	0					0		
字部	ンス	データサイエンス演習Ⅱ		2	演習	後	3年	×		0	0					0		
学部専門ユニッ		社会データベース基礎		2	演習	前	2年	×		0						0		\vdash
門		Webコーディング		2	演習	前	2年	×		0	0					<u> </u>		
三	.	プログラミング応用		2	演習	前	2年	×		Ö	0					0		
ッ	'信 報	Python入門		2	演習	後	2年	×		0	0					0		
ト科目	1 2	JavaScript入門		2	講義	後	2年	×		0	Ö					0	0	
自	수	オブジェクト指向		2	演習	後	2年	×		0	0					Ō		
	Ĺ	社会データベース応用		2	演習	後	2年	×		0						Ö		
	情報システムユニッ	マクロプログラミング		2	演習	後	2年	×		0	0					0		
	ッ	C言語基礎		2	演習	後	2年	×		0	0					0		
		AIとプログラミング		2	講義	前	3年	×		0	0					0		
		ネットショップ		2	講義	前	3年	×		0	0					0	0	
		C言語応用		2	演習	前	3年	×		0	0					0		
	V	ビジュアルデザイン応用		2	演習	前	2年	×		0	0			0		0	0	0
	メディアデザ	映像デザイン		2	演習	前	2年	×		0	0		0	0		0	0	0
	イ	サウンドデザイン		2	演習	前	2年	×		0	0			0		0	0	0
	デー	メディア文化論		2	講義	後	2年	0			0			0		0		
	ザ	Webデザイン		2	演習	後	2年	×		0	0					0		
	イン	音声コンテンツデザイン		2	演習	後	2年	×			0		0			0		ļl
	_ ユ _	色彩論		2	演習	後	2年	×		0	0		0	0		0		
	"	ハしエノ 日末間		2	講義	前	3年	0		0	0		0	0		0		
	ット	現代アート論		2	講義	前	3年	×			<u> </u>	ļ	0	0		0		
		拡張・複合現実		2	講義	前	3年	×		0	0			0		0		
	総合演習	課題探究ワークショップⅢ	- 0	2	演習	後並	3年	X				0	0	0	0	0	0	0
演		演習I	2		演習	前	3年	×		0	0		0	0	0			
	業研究	演習 Ⅱ 卒業研究	4	ļ	演習	後通	3年 4年	×			0	0	0	0	0			0
	- Mr '	^{卒業研究} これでである。 1 の履修について	4		演習	理	4平	×					\cup		U			

[「卒業研究」の履修について]

註1:1・2年次終了時に次の条件①~③を満たす場合、「演習 I 」の3年次前期からの履修を認める。

- ①修得単位数が62単位以上
- ②「入門ゼミナール」(共通科目)「はじめてのデータサイエンス」(共通科目)「現代社会の基礎理解」「発想法入門」を すべて修得していること。
- ③学科必修科目(「ビジネス入門」「現代社会論」「社会学概論」「課題探求ワークショップ I 」「社会情報リテラシー」「調 査統計リテラシー」のうち5科目以上を修得していること。
- 註2:「卒業研究」を履修するには、原則として「演習I」と「演習I」を修得していること。

修

XII Q & A

XI



教職課程

教職課程	•••••	• • • • •	• • • •	• • •	• • •	• • •	• • •	• •		• •	• • •		• •	• •	• •	• •	• •	• •	• •	• •	•				•		1	3	E
------	-------	-----------	---------	-------	-------	-------	-------	-----	--	-----	-------	--	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	--	--	--	---	--	---	---	---

 \blacksquare

П

 $\mathbb{V} \mathbb{I}$

XI

施

Q



[1] 教職課程の概要

「教員になる」ためには、教育職員免許状が必要です。教育職員免許状は、各都道府県教育委員会が発行する ものです。その取得のためには、大学において教職課程を履修し、指定の単位認定を受ける必要があります。

教職課程は、教員として職業的役割を果たす者を養成するものであり、教員としての使命感をもち、実践的指 導力を身につけるなどして、学校組織の一員として即戦力となることが期待されています。同時に幅広い教養を 修めるなど、社会人基礎力を高めていく必要もあります。

また、教職課程を履修し教育職員免許状を得れば自動的に教員になれるわけではありません。公立学校の場合 は教育職員採用選考、私立学校の場合は独自の選考試験に合格する必要があります。

この試験は、小手先の受験技術だけで対応できるものではなく、大学での学修が重要視され、特に教育現場で の実情に即した実践的な指導方法等を総合的に身につける必要があります。そのためにも、大学での学びがより 充実したものになるよう教職演習や学校インターンシップ等への参加に努めることが大切です。

[2] 履修上の留意点・注意事項

詳細の対応の仕方については、適時、教職課程センターから連絡します。

- ①教職課程の履修希望者は、4月に行われるガイダンスで教職課程の説明を受け、1年次前期に開講される「教 育の基礎的理解に関する科目」の第1回目の授業に必ず出席してください。教職課程の概要、履修の方法・手 続きの概要などを説明します。ガイダンス受講後、履修科目の履修登録を行ってください。また、年度途中か ら教職課程の履修を希望する学生又は取得を辞退する学生は、教職課程センターに相談してください。
- ②各学科の教育課程で指定されている必修・選択科目区分と教職課程で指定されている科目区分が異なる場合が あります。前者は卒業要件を満たすもの、後者は教職課程の認定要件を満たすもの、となります。教職課程履 修希望者は、どちらも充足するように履修してください。
- ③編入生等で既に教育職員免許状を取得している学生は、必要単位の検討を行うため必ず個別の相談、指導を受 けてください。
- ④教職課程には、教育実習等、介護等体験の学外実習等があります。学外実習等は、2~4年次に行います。そ のための準備・手続きは2年次から開始します。
- ⑤文部科学省の通達により学外実習等を行う場合には、麻疹等に対する抗体確認を求める場合があります。
- ⑥4年次の後期に教職課程の総仕上げとして行われる必修科目「教職実践演習」では「教職履修カルテ」を活用 します。「教職実践演習」を履修する際に必要となる大切な履修記録で、卒業までの各学年次の自己目標と自 己評価を記録していきます。教員との面談にも活用していきます。「教職履修カルテ」が授業開始までに整わ ない場合は、「教職実践演習」を履修することができません。別途、ご案内するマニュアルを参照し、「教職履 修カルテ | を作成してください。

[3] 複数免許状を取得する際の留意点・注意事項

- ①複数の免許状の取得を希望する学生は、履修や学外実習において注意が必要なため教職課程センターに事前に 相談してください。
- ②所属学科以外で、取得可能な免許状の取得を希望する場合は、所定の手続きが必要になりますので、教職課程 センターに事前に相談、指導を受けてください。
- ③学科専門科目を教職課程の科目としている場合、他学科の学生は総合教育システム「UNIVERSAL PASSPORT」から履修登録できない設定になっていることがあります。その場合は教務課に履修届を提出し てください。
- ④教職課程科目の履修開始時期の遅れや、必要な単位が取得できていない場合は、卒業までに免許状取得が困難 な場合があります。